

今按本社祭神は惣國風土記に所祭素盞鳴尊與云り稻田姫也とあるによりて云るなるべく比賣神は素盞鳴尊の大蛇を斬る時比賣神を湯津振櫛に取なすとあるに就て附會せし説にはあらざる歟國內神名帳に正五位下小楠天神とあれば梳は櫛の誤ならん

祭日 六月十五日九月十九日

社格 郷社

所在 靜岡紺屋町南裏(靜岡市紺屋町縣社小梳神社)

今按此社往古は靜岡の城中に在りしが寛永中に新谷町に遷し其後又今地に遷されしなりと云へり

白澤神社 稱白澤大權現

祭神

祭日 九月十九日

社格 村社

所在 午妻村字白(安倍郡北陵機村大字牛妻)

今按本村の水帳に白澤口と云ふ字の田畑もみえて本はこの一郷の地名なりしが今はかく小地名となれるなりとぞ姑附て考に備ふ

大歲御祖神社 稱奈吾屋本社

祭神 大歲御祖神

今按皇太神宮儀式帳に湯田社一處稱鳴震雷又大歲御祖命

とある同神とみえたりされば此社を奈吾屋本社と云也又倍郡奈吾屋火雷地祇とあるも由ありけなり

祭日 三月三日

社格 縣社

所在 靜岡陵機山麓

今按一説に靜岡の市中なる雷宮を近世大歲御祖皇神社といへど彼社は神階帳に従五位上安倍郡奈吾屋火雷地祇と見えて古へ當社を移し祭れりしにて中世までは即別宮攝社の如くなりしかば式に載られし社は當社なる事云も更なりかの雷宮は有度郡にて郡も進へればかたがた由なし

○廬原郡二座 並小

御穂神社

祭神 大己貴命

三穗津姫命

今按惣國風土記に御穂神社所祭大己貴命又號御穂津彦御とみえたるによれば大己貴命を御穂津彦命とも申し奉れる歟こは古傳によれるものなるべし駿河國志に三穗大明神の社は有度郡三穗浦に鎮座ます三穗津姫神三穗津彦神二柱並びます出雲國三穗の崎を御神縁の始として跡を此浦に垂玉ふ云々とみえ出雲風土記島根郡美保郷云々所造天下大神命妻高志國坐神意支都久辰爲命子奴奈室

今按偽風土記に豐受大神を祭るとあるは豐積の豐の字より思よせて云る説なれば取るにたらず姑附て考に備ふ

祭日 四月十四日

社格 郷社

所在 山井郷町屋原村

今按一説に廬原村なる一宮二宮と稱する社古へは大社なりしと云へば即其二宮ならんと云へと元祿の頃の當社遷宮の祝詞に豐積大明神また豐積淺間大神など見えたれば今は町屋原と定めつ

○富士郡三座 大一座 小二座

倭文神社 稱星山淺間

祭神 健羽雷神

祭日 一月十七日

社格 村社

所在 星山村(富士郡大宮町大字星山)

今按本社は觀音堂と寺との間に在て星山淺間と云るが社は五百坪餘ありて除地なり何の頃よりか神殿もなくなり杉の木を神木として前に假初なる拜殿あるのみなり式内の社の佛徒の爲に狭められてかく成ぬる事いともうれたく悲しき事になむ

淺間神社

波比賣命而令産神御穂須々美命是神坐矣故云美保とある大神は大己貴命にまし又神代卷に高皇産靈尊勅大物主神汝若以國神爲妻吾猶謂汝有疏心故今以吾女三穗津姫配汝爲妻宜領八十萬神永爲皇孫奉護とある此に由あり出雲國三穗神社にます神を遷し祭れるなるべし

神位 清和天皇貞觀七年十一月二十一日戊辰授駿河國從五位下御廬神從五位上陽成天皇元慶三年四月五日甲子授駿河國從五位上御廬神正五位下

祭日 十一月二十八日

社格 郷社

所在 三保村(有渡郡)(三保縣社御穂神社)

久佐奈岐神社

祭神 日本武尊

祭日 九月二十九日

社格 郷社

所在 草谷村 字宮平

豐積神社

祭神 木花咲耶姬命

駿河國 富士郡